

明治期の東京市において「貧困・疾病・障害」等で放置された子どもに向き合った教育者群像

○石井智也 高橋智
（東海学院大学人間関係学部）（日本大学文理学部）

KEY WORDS：明治期、東京市、貧困・疾病・障害、教育者群像

1. はじめに

現代の子どもの貧困化・教育格差の拡大、そしてコロナ禍により子どもの格差・貧困が一層激化する中で、教師や学校教育は無力であるのか。そうではなく、むしろ教師や学校教育の意義・役割があらためて確認・評価され始めている。例えばコロナ禍の子ども被害が甚大である北欧諸国においても、教師・学校教育はまさに子どもの生存と発達を守るシェルターとして機能していることが徐々に解明されつつある。

今回取り上げる 110 年以上前の明治期は、急激な資本主義化・工業化・都市化等の下で国民・子どもの生活はより一層劣化し、「貧困、疾病・感染症、児童労働、不就学」が蔓延していった。現代よりもはるかに困難な状況・時代のなかにあつて、教師・学校は手をこまねいていたのではなく、子どものためにすべきことに精一杯に取り組んでいた。それゆえに、不十分ではあるが、教師・学校は現代と同様に子どもの生存と発達を守るシェルターとして機能していたと想定できる。

本報告は、明治期の東京市において貧困・疾病・障害等のために放置されていた多数の子どもに対して、教師・学校がどのように向き合い、子どもの多様な「学習と発達の困難」に取り組んでいたのかを明らかにする。

2. 明治期に貧困・疾病・障害等のために放置されていた子どもの教育に関する研究動向

これまで明治期においては近代教育の制度的発展に伴い、行政主導で設置された「標準的」「正系」の公立小学校が民衆に受容されてきたと捉えられてきた。しかし実際は「近代学校」を「拒否・忌避」した民衆も少なくなく、学校への就学が定着し慣習化するのには大正期以降であった（柏木：2012）。

土方（2002）は、1900（明治 33）年以前の東京市域の初等教育の実態について明らかにし、公立小学校より教育内容が劣っていたと評価される私立小学校が中下層の子どもたちの教育要求を満たす役割を果たしていたこと、1900（明治 33）年以降において公立尋常小学校が増設された後も「特殊小学校」「夜学校」などの初等教育の場が存在し続けたことを明らかにした。公立小学校以外の「私立小学校、特殊小学校、夜学校」等の多様な初等教育機関が都市下層・貧困層の子どもたちの就学や教育にとって重要な意味をもつことが示唆された。

この時期の東京市では急激な資本主義の発展に伴い、都市失業者は増加し、都市スラムが拡大する。スラムでは住宅過密や上下水道の欠如などの劣悪な環境によりコレラ・赤痢・腸チフス等の伝染症が蔓延し（石塚：1977）、何度も生じる風水害により生命が危ぶまれるような状況下にあった。そうした中において都市下層・貧困層の子どもたちは、否応なしに「貧困・疾病・障害」等に直面し、深刻な危機を抱えていた。

東京市によりスラムに設置された特殊小学校の役割について、万年小学校校長の坂本龍之輔の学校経営と教育観から明らかにした別役（2019）は、工場労働者養成のために特殊小学校が開設されたことを示しつつも、実際には子どもの実態に応じて仕事の斡旋、特別作業による賃金収入の確保、「幼児保育場」の設置などが取り組まれていたことが明らかにした。

上記のように東京市では貧困・疾病・障害等のために放置された子どもが多数存在し、東京市ではそうした子どもも含めた初等教育の普及が試みられたが、その際には子どもの実態やニ

ーズに応じた教育者や学校の存在が不可欠であったことがうかがえる。

3. 明治期の東京市において貧困・疾病・障害等で放置された子どもに向き合った教育者群像

明治期の東京市では公立小学校には多くの富裕層の子どもが就学し、私立小学校・小学簡易科・夜学校・特殊小学校などの多様な初等教育機関が中下層の子どもの実態やニーズに応じた教育的対応を実施していた。

とくに 1900（明治 33）年の小学校令改正以降、治安対策や労働力涵養の一環として東京市によって開設された特殊小学校では、教師が貧困・疾病・障害等で放置された子どもに向き合い、丁寧な学習指導に留まらず「入浴」「理髪」「家庭訪問」「災害救護」や医師による「皮膚病・眼病の治療」の提供等を実施

年数	学校名	住所
1903（明治 36）年	万年特殊小学校	下谷区万年町 2 丁目
1903（明治 36）年	霊岸特殊小学校	深川区霊岸町
1903（明治 36）年	三笠特殊小学校	本所区三笠町
1903（明治 36）年	鮫ヶ橋特殊小学校	四谷区鮫ヶ橋町 1 丁目
1905（明治 38）年	玉姫特殊小学校	浅草区玉姫町
1905（明治 40）年	芝浦特殊小学校	芝区新網町
1909（明治 42）年	絶江特殊小学校	麻布区新堀町
1910（明治 43）年	林町特殊小学校	小石川区林町
1912（明治 45）年	猿江特殊小学校	深川区猿江町
1912（明治 45）年	菊川特殊小学校	本所区菊川町

し、子どもの健康や生活の改善に取り組んだ。

こうした取り組みを通して、子どもには「児童相互に敬語を用ひむるの結果は学友親和の情を増加」し「粗暴の言語動作は変じて明瞭丁寧なる言語と温和従順の気風」となったという成長・発達の変化がもたらされた。「従前会つて路傍にありて、人を嘲り、家屋に楽書をなすが如きこと一もあるなく、却つて父兄は学校教育の効果を謳歌するに至れり」とスラム地域自体の改善ももたらされた。



鮫ヶ橋特殊小学校での子どもの入浴指導
（『東京市教育会雑誌』第 29 巻、1907 年）

【文献】

- 別役厚子（2019）『子どもの貧困と教師—東京市万年小学校をめぐる苦悩と葛藤—』六花出版。
土方苑子（2002）『東京の近代小学校—「国民」教育制度の成立過程—』東京大学出版会。
柏木敦（2012）『日本近代就学慣行成立史研究』学文社。
（ISHII Tomoya, TAKAHASHI Satoru）